

2026 年度

大学院文学研究科博士課程前期 2 年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 美学・西洋美術史 専攻分野

出題意図

問 1 全体の出題意図

これらの概念ないし用語は、いずれも西洋美術史、美学、東洋・日本美術史の 3 領域に関わる基本的な知識であるとともに、文学研究科で教育に携わっている関連分野の教員が目下の主なテーマないし関心事として注目して展開しているキーワードである。

文学研究科の総合人間学専攻では、は美学・西洋美術史専攻分野および東洋・日本美術史専攻分野が一体となって「芸術人間学講座」を制度的に形成し、学生教育および研究も連携している。このような研究および教育環境を踏まえて、博士課程入学希望者には、先述の 3 領域について十分な知識を求めている。各教員の情報はウェブサイトで公開されており、またそれぞれの研究成果も随時、出版物ないしデジタルデータで公表されている。受験生はそれらの内容を調査し、各教員が目下のところどのような関心を抱いているかを探究することが十分に可能である。

以下、各問についての出題意図の解説ないし解答例そのものを挙げる。

(1) 美術における裸体

古代以来、西洋美術は人間の裸体を最も重要な主題ないし題材の 1 つとして選び、多様な時代および地域に応じて多様な表象例を生み出してきた。この重要な問題についての基礎的な認識およびアプローチを測るための問題である。たとえば、特定の時代や地域における裸体の表象をとりあげて、身体比例をめぐる理念や裸体であることの文化的意義について具体的な例とともに論じる、ケネス・クラークのような論者によってこれまで論じられてきた裸体論の要点を挙げる、あるいはフェミニズムの視点から裸体的美術を批判的に検討し、その問題点を指摘するといった解答がありうる。

(2) エルギン・マーブル

1801 年頃から、オスマン帝国の権益内にあったアテナイに赴いた英国の大使エルギンは、パルテノン神殿（紀元前 440 年代）の遺構から多くの遺物を発掘し、英国へと持ち帰り、現在まで大英博物館にある。これによって、文献的には知られていたものの、とくに西ヨーロッパでは長きにわたって実体が不鮮明であった古代ギリシア美術が驚くほどの解像度を再獲得した。この重要な作品が 19 世紀以降の美術史記述に与えた大きな影響を具体的に述べる（たとえばメディメントやフリーズにある彫刻の構造および特質）ができるかを測る問題である。また、文化的遺産の所有権をめぐるグローバルizmおよびナショナリズムの問題に触れることもできよう。

(3) 風景

美学的研究において風景は単なる自然およびその表象以上に、人間が自らの環境をいかにして知覚し、文化的・感性的価値を投影しながら再構成するモデルとして注目される。たとえば、18世紀にはカントやバークが風景に「崇高」の価値を再発見し（古代のロンギノスによる崇高論の近代的読解）、同時代のイングランドやネーデルラントにおける風景画における「ピクチャレスク」という新たな視覚性にも展開した。日本でもたとえば和辻哲郎のような論者が風景（彼の言葉では風土）を感性的・歴史的・文化的価値と不可分に結びつけた美学的指標として注目している。美学的研究における風景への関心をどれほど共有しているかを測るための問いである。

（4）詩画軸山水画

詩画軸山水画（詩画軸とも）は、掛軸の画面下部に水墨で山水を描写し、上部には表された画の主題と関連する漢詩を墨書した作品を指す。この形式の作品はとくに五山の禅僧によって好まれ、しばしば山水のなかでの静寂な場所で生きる文人的理想を表した作品も多い。とくに著名な作品、たとえば有名な如拙筆《瓢鮎図》等に触れながら、この形式の重要性について論じることが求められている。

問2

博士課程二年の課程では修士論文を執筆し、自立した研究者としての能力（課題の発見力、記述および分析の力、資料調査力）を十分に習得する必要がある。そのための準備および研鑽の程度を測るため、目下取り組んでいる西洋美術史ないし美学の研究（卒論等）の概要を問い、受験生の研究技能、視野の広さ、基礎的知識および分析的方法の程度を測ろうとした。具体的な問い、研究方法、結論を、具体的な例を挙げながら明確に論じてほしい。